

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第198回

【学生の目】

住宅街で戸建て住宅に挟まれた小さな公園が目に残った。浦安市はもともと過密住宅地が多く、公園等のオープンスペースが少ないことが住環境や防災面の課題だった。市は05年に都市緑地法第4条

小さなポケットパーク

改定している。建物などに挟まれた小さな公園をポケットパークという。洋服のチョッキを「ベスト」というが、ポケットパークは「ベスト・ポケット・パーク」の略で、「ベスト」に付いているポケットのように小さい規模の公園を意味している。ポケットパークのメリットは、誰でも気軽に立ち寄ることができ、結果として、地域の交流の場憩いの場となることだ。

軒の小さな住宅が建設されたに過ぎず、狭小な住宅の密集エリアとして地域の価値はかえって低下する可能性がある。ポケットパークは常に解放されている。遊び場の床面には人工芝が張られ、周囲は外からも様子をうかがうことができる木製の柵で囲まれている。道路に面する部分は駐輪場として使える十分な広さが確保され、子供たちが駐輪するほか、お母さんたちが自転車止め、遊び場で遊ぶ子供を見守りながら談笑することもできる。駐輪場と遊び場の間には、



地域の価値を高めるポケット・パークだが

実現には地域の理解必要

第1項の規定に基づく法定計画「浦安市緑の基本計画」を立て、花壇やポケットパーク等を増やして町全体の緑化を進め、生活に密着した市民の庭を創造することに努めてきた。14年には少子高齢化の進行や東日本大震災の経験などを踏まえて計画を

デメリットは、ごみのポイ捨てや犯罪などだ。写真は「ひまわり児童遊園」と命名された、子供の利用に特化したポケットパークだ。戸建て住宅の敷地とするにはやや狭小な土地だが、人氣が高い浦安市の中央部に位置し、戸建て住宅を建築すれば入手しやすい価格帯の住宅としてすぐに買手がつきそうだ。しかしその場合、1

ゲートが設けられている。安い材料ながら、かわいい形と高さデザインされていて、子供の遊び心と呼び覚ましそうだ。

実現する背景として地域の人々の理解と協力がある。

【教員のコメント】

このような施設を設ける場合に問題になるのが、近隣からの反対だ。保育園をつくらうとすると近隣から公然と反対運動が起きたりする。このポケットパークでは隣接する戸建て住宅の大きな窓が子供たちを優し

く見守っているようで温かい。ポケットパークが地域の価値を高めているが、それを

ポケットパークというには規格外の狭さだが、それゆえに実現するまでの地域の実情、行政の工夫、設計者のセンスが透けて見える。加えて、それらの連鎖を遮断することなく、連鎖に加わる地域のおおらかさの大切さを若い感性が捉えている。



西川 美波
不動産学部3年